

下 行事藏人終夜束帶監臨候小板敷雜色以下亦終夜遞檢知之束帶、

〔雲圖抄上〕七月七日乞巧奠事清涼殿東庭供之南階間立之或

東庭同見二星之佳會臨曉召侍臣令御倚奏管絃、



火舍蓮房

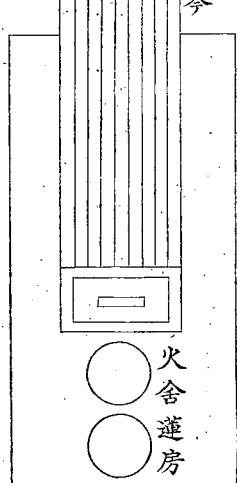
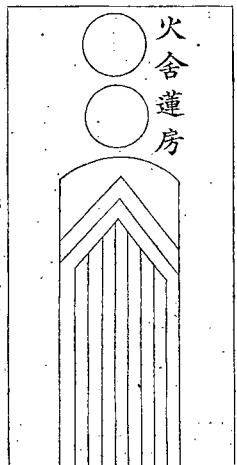
琴



針差楸葉



立朱漆高机說又脚東  
北妻立之以掃察部筵爲下數、  
雨濕之時仁壽之、  
西砌內奠之、



東庭

革

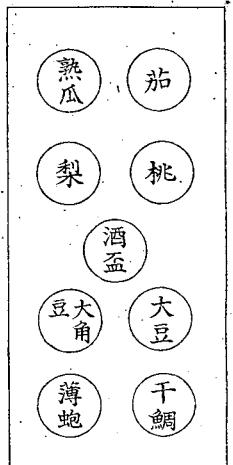


或置琵琶

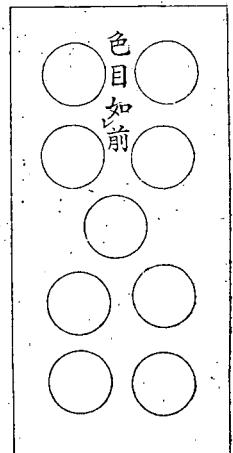


東庭

革



壁雜色所終夜巡檢臨曉廊  
散香也、  
相對各逐南、或又打數、



〔東宮年中行事七月〕おなじき日〇七 きつかうてんの事

この日のゆふべに、ざやうじのくら人、ひのござのみすをたれて、にはにひろむしろ三枚をしきて、しゆでんのかみのしもべこれをしく、そのうへにつくゑをたて、まつりの物どもをそなふ。たといりやくさしづにみえたり、くら人ならびに所のざうしき、おなじき所のしゆ、たちはきをののそくたいをして、これをやくす、又同ともがら、よもすがらかはるがはるごの所に候、ちやうぐわむもせうく候べきなり、あか月にのぞみて、つくゑならびにむしろのうへにかうをちら